事業所訪問

こんにちは健保組合です！

社団法人 千葉県トラック協会の巻

カレンダーもあと一枚となり、師走に入った初日の十二月一日、事業所訪問の第三二回目としてお邪魔することとなったのは、千葉市美浜区に所在するわが母体である社団法人千葉県トラック協会（以下、協会）でありました。

皆さんご承知のとおり、協会は貨物自動車運送事業の適正な運営および公正な競争を確保することによって事業の健全な発達を促進し、公共の福祉に寄与することや会員相互の連絡協調の緊密化を図ることを目的として昭和四十八年八月に設立された団体であり、現在約一、七五〇の会員を擁し、設立目的に沿った多岐にわたる事業を展開されています。

健保にとって身内ではありますが、今回はいつもは聞けないことを期待しながら私たちは目的地に向かいました。

ハード・ソフト両面改革により メリハリのある職場環境に

目的地は、協会と密接な関係にある関東運輸局千葉陸運支局の目と鼻の先に位置し、レンガ色がその建物のシンボルカラーとなっていました。

一階が事務室になっており、「こんにちは！（今回は訪問先の性格から本企画のサブタイトルと違ったイントロになりましたが、あしからず！）」とお邪魔しました。いつもお世話になっている方々が、いつもどおり笑顔で出迎えてくださいました。

今回は、布川専務と組合の保健事業に積極的に参加いただいている関係団体である陸上貨物運送事業労働災害防止協会（以下、陸災防）の清水さんがご多忙中にかかわらず、取材に応じてくださいました。

最初の話題は、協会の福利厚生事業などについてでした。

お聞きすると、最近は職員間のコミュニケーションが自然にとれるようになりつつあるとのことです。年に二回のボウリング大会は恒例となり、また、職員旅行も始められたのだそうです。職員の皆さんがとても楽しみにしていらっしゃることはいうまでもなく、日常業務にもメリハリのあるとてもよい職場環境になったとのことでした。

▲布川専務（左）と陸災防の清水さん

その背景には、布川専務が協会に着任されて以来、いくつかの内部改革を進められてきたことにあるようです。その中身は、ソフト、ハードの両面にわたっております。職場を清潔に明るくすること、上下関係を極力廃止すること、業間体操等を取り入れることなどや、その他いろいろと打ち出されたものがあるようです。実際に成功するかどうかよりも、その姿勢を浸透させることにより、業界に対して常に正面を向いてサービスに徹底することが本質であることを啓蒙したいのだと感じました。このことは、当然、健保としても省みなければならない部分でもあり、よい機会を与えられたと感謝しました。

運動量が多いテニスを趣味とし、これといった病気知らず

布川専務は健康に関して心がけていることとして、規則正しい生活をあげられました。

起床時刻に始まり、毎日一万歩を目標に歩くことを心がけ、就寝時間にいたるまで一定のリズムで一日が流れるよう努力され、それに加えて何事にもくよくよしないことを信念とされているようでした。

▶トラック会館

そのかいあってか、氏はこれといった病気もせず、それが逆に弱者（例えば病人）の立場で物事がみられないときがあると謙遜されましたが、しかし趣味の運動量の多いテニスを長年続けてこられたことなどをおうかがいすると、理想的にお年を重ねられている（ご本人はまだ若いとおっしゃるかもしれませんが、お許しを！）お手本だと、私たちは感心しました。

健康の保持増進という視野に立てば、協会としても推進していかなければならないことから健保とリンクすることが多く、清水さんから陸災防での腰痛予防講習会の事業内容をお聞きし、私たちも積極的にお手伝いできれば、との感想をもちました。

与えられた使命は 業界地位のレベルアップ

その後私たちは、これからの協会の果たす役割について話題を投げかけました。

布川専務は、時代の趨勢（すう）とともに多様なニーズに対応しながら、規制緩和の環境下で昔ながらの役所の出先的な役割だけではなく、社会との共生、環境問題、交通安全問題、中小企業の底上げ、業界地位のレベルアップ等を図るためのイニシアチヴをとることがこれからの与えられた使命と断言されました。

そのためには、協会も大きな岐路に立たされており、生まれ変わる必要があるが、環境問題等では行政、企業、さらには消費者が強く認識しながら、一体となって取り組む大きな問題であると付け加えられました。

日本の産業を末端で支えているのは、物流業界といっても過言ではないでしょう。その業界への国民の見方が方向転換すればよいのでしょうが、まだまだ問題は山積だと実感しました。

運送事業への新規参入が容易になった現在、そのことがお互いの足を引っ張らないように事業者のクオリティーを高め、ある時は業務提携をしたり知恵を出し合った事業展開をすることが中小企業の生きる道であると、この話題を締めくくられました。

最後に、母体として、また一事業所として健保に対する率直な意見をとうながしたところ、本企画（事業所訪問）に関しては、「健保だより」をとおしてふだん接することが少ない事業所とのコミュニケーションを広げたような気持ちにさせてくれて、とても良い企画だと賛辞をいただきました。

さらに、事業者にはバスハイキングのような、会社単位で本人も家族も参加できる事業はなかなか企画が難しいことが多いので、参加して非常に楽しいともおっしゃってください。

また、家庭常備薬や「健保手帳」の配付等については、見直しの時期にきているのでは、とのご指摘です。

こうして、ふだん交流があってもなかなかお聞きすることができないニュースソースを得られたことに満足しながら、今日の取材を終えることとなりました。

ご協力ありがとうございました。

◇　◇　◇

トラに別れを告げ、ウサギがピョンピョン跳んでくると二一世紀がもうすぐそこまで近づいてきます。二一世紀の日本はいったいどういう方向に進んでいくのでしょうか。

来年こそ、救世主が現れることを期待し、一九九九年を元気印のウサギのように飛躍の年にしたいものですね。